

土佐希望の家通信




<発行>重症心身障害児者施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131/FAX 088(863)2133
 http://www.tosakibou.jp Email:info@tosakibou.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 石川 陽子

ここに改めてご協力いただきました方々から感謝申し上げます。このレリーフを見て、触れることによって土佐希望の家を作られた山崎ご夫妻への想いを馳せて頂ければ幸いです。

レリーフ募金の取り組み
 土佐希望の家 長谷川憲隆後援会会長

土佐希望の家は1970年の開設から45年になります。当時は全国でも重度心身障害施設(法人立)は50ヶ所前後であったと思います。高知にもなんとか親が安心して預けることのできる重心施設を作りたい一心で、山崎勲氏は当時、現役一級の競輪選手として活躍しながら、競輪のない時は施設づくりのために、ご夫婦でまさに東奔西走していました。重心施設という大変さゆえに、当時協力が難色を示していた専門的立場の方々も、そうしたお二人のご努力の結果、協力を惜しみなくしてくださいようになり、建設資金も全国から募金が集まりました。土佐希望の家であります。こうした山崎ご夫婦のご努力を多くの方に知っていただきたいと、銅板のレリーフ作成募金に取り組み、多くの方々の協力によって完成設置できました。

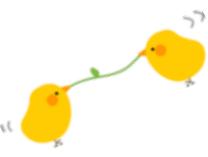
6月21日に除幕・贈呈式を行い、創設者である山崎勲・祥子ご夫妻、そしてレリーフのデザイン制作を手掛けて下さった高知大学の阿部鉄太郎先生をお招きすると共に、利用者の方々、ご家族の方々、また募金にご協力下さった有志の方々から山崎ご夫妻を顕彰する会から法人の山田常務理事へ贈呈を行い、山田時代の土佐希望の家草創期から利用されている楠瀬順子様・島崎純一様・沢村多枝子様の除幕によってレリーフをお披露目することができました。



2病棟東で深夜勤務中での出来事...
 巡回中、Mさんの顔を見るとニコニコと笑顔に。そして次の瞬間「ん〜○○さん〜!!」とMさんの口から大好きな職員の名前が...。そしてまた本当に嬉しそうな笑顔に。
 Mさんは、その職員との個人外出を楽しみにしていたので、きっとその夢を見ていたのでしょう。
 やはり利用者様にとって外出が一番の楽しみようです。その笑顔はきっと忘れられないと思います。

2病棟療育主任 木下美和

ちよことい話 病棟編



土佐希望の家の3病棟の南側、特別支援学校への通路との間の僅かな中庭にサクラランボの木があります。植えられた由来は知りませんが、私がこの希望の家に来てから毎年、春先になると赤いランボのような果実をいっぱい実らせて楽しませてくれます。特別に肥料を与えられている訳でもなさそうですが、今年もいっぱい美しい果実を実らせてくれ、観る人の心を和ませてくれました。
 横を通るたびに「ありがと〜...」と声を掛けてみました。
 4月の青空を爽やかな風が通っていき

施設長 長 博雪

ちよことい話



業務を続けさせていただくことが今の私の一番の望みです。
 私には毎朝つばやく言葉があります。それは「誠実であれ。謙虚であれ。」という言葉です。若いころ「やんちゃ」といって聞かれています。今は亡き父が、優しく諭してくれた言葉です。この言葉を忘れないように、これからも利用者の方や職員の方々のために頑張ろうと思っています。

HAPPY LIFE 家族の窓 No.31 藤岡彰次様 2病棟



藤岡 美智子 (母)

入所して2年になりました。入所前は、一緒に居るのは当たり前のように40年余り体の一部のように過ごしてきました。先の見えない、その日その日が責任感と不安で押しつぶされそうになりながら、毎日が時計の針のように進んでいき休日はありませんでした。

5年前に尿意が伝えられなくなり、排尿することができなくなり、バリンカテーターが入りました。以前にも増して厳しい生活になり、導尿管が付いているので行動範囲が狭くなり、それまで這って自分の欲しい物は取りに行っていたのが、座ったままで動けなくなるのに時間はかかりませんでした。移動が大変で車椅子に乗せるのもままならず、自分の体力も限界となり泣きながら夜を過ごしたこともありましたが。またこの子のおかげで元気な体でいられたという気持ちで入所

した頃は2人の時間が長く、本人も自身も病棟の方に溶け込めずにいました。

半年位経過して自分の居場所を認識したと思う頃から本人も慣れてきて、外出、ドライブと心弾ませ色々な行事に参加できてきました。家でできなかったことを経験させていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

親だからできることをできるときにと思いつつも、振り返れば何もしてやれず、悔しい思いが残ります。スプーンで食事を口に運ぶことしかできないけれど、私自身、希望の家に伺うたび、職員の方のあたたかさや病棟入所者の純真な心に触れたいという気持ちがあります。本人には今、このときを少しでも良い顔をして過ごしてほしいと願っています。



私の仕事 29



事務部 施設管理課長 曾我部 正

私は平成15年1月に入職し、気が付けば今年で13年目になります。採用試験の時は40数名の受験者があり、採用が一人だけとのこと、半分あきらめムードで1次試験、2次試験、実技試験と進み、ある日突然、採用決定の連絡があり、何が何だか解らないうちに入職したように記憶しています。入職時には運転手として採用され、主な仕事は第一希望の家から若草養護学校土佐希望の分校までの送迎でした。当時の学校の先生方は個性的な方ばかりで飲み会も度々あり楽しい毎日でした。また美しい先生にときめいたりした事が懐かし思い出されます。

現在では運転する機会も減り1病棟の園外療育や各病棟の1泊旅行くらいしか利用者の方や職員の皆さんと一緒に外出することがなくデスクワークと施設管理の仕事が多くなりました。

唯一、昔と変わらない必須業務が江口先生の送迎です。江口先生の送迎中(車内の会話の内容は秘密です！(笑))が私にとって一番の学習時間になっています。障害者医療のパイオニア的存在である先生のお話は、無料で講義を受けている様でとてもラッキーな時間です。先生にはずっと元気でいていただき、送迎



平和コンサート

7月12日(日)県民文化グリーンホールにて第32回平和コンサート2015が開催され、1病棟からは横井元さん、有光眸さん、2病棟からは大久保季さん、山本やしおさん、3病棟からは中城幸子さん、浜口延雄さんが参加。障害を持つ人とその家族・施設の職員・若手バンドで構成された「わっと ほっと チリペッパーズ」のメンバーで「キャッチして僕たち私たちが」のテーマのもと歌・演奏を行いました。中城さんの詩にうーみさんが曲をつけてくれた「ずっと」と「Believe」を熱唱し会場から暖かい拍手をいただきました。



旅の思い出

1病棟 いの町かんぽの宿



6/11~12 北村温さん、入交元氣さん、安芸けい子さんでの町の「かんぽの宿」へ一泊旅行に行きました。あいにくの雨でしたが楽しみにしていた豪華な食事にみんな大満足!!笑顔の旅となりました。



2病棟 フジ&あじさい街道



6/10 光富万利子さんと野村和人さん、6/13 中沢滋さんと下村リサさんが野市のフジグランへ買い物に行きました。買い物を終えるとあじさい街道で綺麗に咲いたあじさいを見ました!!

障害者スポーツ大会



5月31日(日)第17回高知県障害者スポーツ大会が春野運動競技場で行われました。希望の家からは3病棟の利用者様がスラローム2という競技に参加しました。結果、3名の方がめでたく入賞しました。スラローム2自走の部で榎尾弥佐さんが1位、壮年の部で大黒直人さんが2位、下司正幸さんが3位入賞!!皆さん、お疲れ様でした!!

6/25~26 小松義幸さん、西崎佐知子さん、佐藤誠さんでサンピアセリーズへ一泊旅行に行きました!!翌日はイオン高知で買い物へ。楽しい旅行になりました。



3病棟 サンピアセリーズ&イオン



第37回 希望の家祭

今年の希望の家祭の日程が決まりました!
2015年10月11日(日)
10:30~15:00

「テーマ」
希望の家もみんな(37)がスターやき☆
~騒ぐ・騒げる私の想い~
ステージ・喫茶・展示もあります!!
楽しみにして下さいね☆

プール開き

7月15日(水)に通園では恒例のプールが始まりました。悪天候が心配されていましたが、当日は見事な快晴となり無事に行うことができました。浮き輪やボートにつかまって職員と一緒に泳いで、皆さんそれぞれに良い表情でした。これから通園の夏の始まりです!!

ありがとうございました。
今後ともよろしくお願ひします

【寄付金・寄付物品】

1)厚意

桂民謡会様・北村忠司様・田村光昭様
高知桂民謡会 楠瀬昌子様・門田作太郎様
小林豊様・有限会社大衆理容 代表取締役 徳廣百合子様・高橋利幸様・淳子様
土佐希望の家 山崎勲ご夫妻を顕彰する
会会長 長谷川憲隆様・高知農業高校様